

資料 8

2020年12月2日 加藤官房長官記者会見 午前

https://www.kantei.go.jp/jp/tyoukanpress/202012/2_a.html

1回目の質問

2:12～

12月の1日、ドイツのベルリン市のミッテ区長がミッテ区議会において、10月上旬に発出した慰安婦像撤去の命令を撤回した旨発言したと承知しております。

政府はこれまでミッテ区をはじめとする関係者に対して我が国の立場について説明を行ってきたところでありますが、今回の決定は、我が国政府の立場、また、これまでの取り組みと相いれない極めて残念なことだと思っております。

2回目の質問

4:50～

朝日新聞〇〇です。ベルリンの少女像について、世界各地で少女像が建っています。このようなことが続くと思うが、現状も各地でありますけども、同様の問題が起こらないように政府としてはどのように対応されていくのか？

加藤官房長官：

そうした動きというのは我が国政府の立場と相いれないものでありまして、政府としては諸外国で様々な出身の人々が平和と調和の中で共に生活していくことを希望しているわけでありまして。

各地において状況も様々でありますけれども、これまで我が国の働きかけにおいて実際に関係者の理解を得て動きが収まった例も存在しているわけでありまして。政府としては慰安婦問題についての政府の考え方やこれまでの取り組みを様々な形で国際社会に対して説明してきておりますし、引き続き国際社会から正当な評価、理解が得られるように今後とも努力を重ねていきたいと思っております。